

令和7年度		認定こども園 京ヶ瀬こども園		教育課程		園長	副園長	教頭	主幹			
教育理念		地域・家庭と共に、「人として生きていくための基礎を培う」										
資質・能力の3本の柱		知識及び技能		思考力、判断力、表現力等		学びに向かう力、人間性等						
教育・保育において育みたい資質・能力		豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」		気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」		心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」						
小学校以上/教科横断的・総合的に育成すべき様々な資質・能力		何を理解しているか、何ができるか(生きて働く「知識・技能」の習得)		理解していること・できることをどう使うか(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)		どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)						
年		年齢		2歳児(満3歳)		3歳児		4歳児		5歳児		
教育目標		象徴機能や想像力を広げながら集団活動に参加する。		身近な仲間や自然等の環境と積極的に関わり、意欲を持って活動する。		信頼感を深め、仲間と共に感情豊かな表現をする。		集団生活の中で自立的・意欲的に活動し、体験を積み重ねる。				
領域		ね ら い		内		容						
健康		健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。 (1) 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 (2) 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 (3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。		●運動、指先の機能の発達 ●自ら食べる意欲		●意欲的な活動 ●基本的な生活習慣の確立		●健康への関心 ●体全体の協応運動		●健康増進とさらなる挑戦への意欲 ●安全で安定感のある行動		
人間関係		他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う。 (1) 幼保連携型認定こども園の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。 (2) 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。 (3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。		●自己主張の表出 ●友達との関わりが増大 ●思い通りにならないことへの葛藤経験		●自分でしようとする意志 ●道徳性の芽生えと平行遊びの充実		●仲間との深いつながり ●相手の思いへの気付き		●社会性の確立と自立心の育成 ●自分で考え自分で行動 ●友達と意思の共感		
環境		周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていくとする力を養う。 (1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。 (2) 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたり、それを生活に取り入れようとする。 (3) 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。		●自然事象への積極的な関わり ●自然の大きさ、美しさ、不思議さへの気付き		●身近な環境への積極的なかかわり ●身近なものを大切にすること		●社会事象への関心の高まり ●工夫して遊ぶ楽しさ		●社会、自然事象へのさらなる関心と生活への取り入れ ●ものの性質や仕組みへの興味と、関心 ●数量、図形、標識、文字、国旗への関心		
言葉		経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。 (1) 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 (2) 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。 (3) 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育教諭等や友達と心を通わせる。		●言葉のやり取りの楽しさ ●日常の挨拶への親しみ		●言葉の美しさ、楽しさへの気付き ●生活の中での必要な言葉の理解と使用		●伝える力、聞く力の獲得 ●絵本や物語への親しみ		●文字や数字の獲得による遊びの発展 ●体験によるイメージや言葉の広がり		
表現		感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。 (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。 (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。		●象徴機能の発達とイメージの膨らみ ●音、色、形、手触り、動きを感じる楽しさ		●自由な表現と豊かな感性の育ち ●感動体験を伝え合う楽しさ		●豊かな感性による表現 ●心を動かす出来事による想像力と感性の獲得		●ダイナミックな表現 ●感動の共有 ●体験を通じた表現		
小学校との接続と連携		教育及び保育の内容の工夫を図る。 園児と小学校の児童の交流の機会を設ける。 小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会を設ける。		満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮した関わりと見通しをもって園児と接する。		3歳児入園が多いので、基本的な生活習慣の確立とともに集団生活の中でのきまりや他児との関わりに配慮する。また、自治体独自の教育体制としての地域学・英語教育の始まりの時期でもある。		4歳児クラスは、後期になったら対外的な行事への参加を積極的に行い、積極的な表現活動を促すようにする。		5歳児クラスでは小学校に向けて認知活動とともに非認知活動を深め、自立に向けて取り組む。例／きらきらいむ ・アプローチカリキュラムの推進 ・保幼小中一貫による家庭への啓発週間の実施 ・小学校への要録提出		
備考		※自治体の教育施策を踏まえた園づくりを進め、保育の指導にあたる。		※「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ全体的な計画を作成し、人的物的面の確保等をして、組織的、計画的に教育及び保育活動の質の向上を図っていくことを指す。		※「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ全体的な計画を作成し、人的物的面の確保等をして、組織的、計画的に教育及び保育活動の質の向上を図っていくことを指す。		※幼児教育とは環境を通して行う教育をいう。発達に必要な体験、自発的な活動としての遊びは発達の基礎を培う重要な学習である。		※5領域のねらいは心情、意欲、態度を示しているが、本来は心情、意欲、態度等を5つの領域で教育しているということである。		
発達過程とクラスの相関性		0歳児1クラス、1歳児2クラス2歳児2クラス、3・4・5歳児各2クラス、計11クラスで教育・保育をする。幼保連携型認定こども園教育・保育要領を取り入れながら、全体的な計画・年間指導計画等を作成する。				教育5領域との整合性		幼保連携型認定こども園教育・保育要領第2章「ねらい及び内容並びに配慮事項」に鑑み、各領域が示す目的にそって教育及び保育を進める。その際、総則を前提とした配慮を行う。三つの資質・能力を実現するためにアクティブ・ラーニングを用い、認知能力とともに非認知能力を大事にする。				
評価と反省												
対象者 1号認定(満3歳以上で教育認定を受けた者)及び2号認定(満3歳以上で教育及び保育認定を受けた者)						教育時間						
*満3歳児の考え方:2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮したかかわりと見通しを持って子どもと接する。						*年間39週を下らない						